

健康と環境を守る

保健環境センターだより



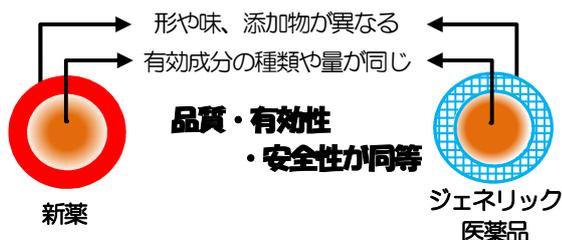
知って!
安心

ジェネリック医薬品

食品薬品部

ジェネリック医薬品とは?

ジェネリック医薬品(後発医薬品)は、新薬(先発医薬品)の特許が切れた後に、新薬と品質、有効性及び安全性が同等であるものとして、厚生労働大臣が承認を行っている医薬品です。



開発費用が抑えられているため、価格が新薬の5割程度と安価です。そのため、国は医療費を削減し、国民の皆さんの医療保険制度を守るために、使用を促進しています。

保健環境センターの取組

患者さんや医療関係者の方々が安心してジェネリック医薬品を使用することができるように、国は、流通しているジェネリック医薬品の試験検査を、各都道府県と協力して行っています。

ジェネリック医薬品の品質を確認する検査の1つに、決められた時間に医薬品から有効成分が規格どおりに溶け出てくるかを検査する溶出試験があります。



溶出試験器

試験中の様子

保健環境センターでは、令和元年度は12検体のジェネリック医薬品について検査を実施し、いずれも規格に適合していることを確認しました。

今後も、患者さんや医療関係者の方々が安心してジェネリック医薬品を使用するための一助として、試験検査を実施していきます。

さらに詳しく知りたい方は

厚生労働省 HP「後発医薬品(ジェネリック医薬品)の使用促進について」をご覧ください。



厚生労働省 HP

注目!

気候変動適応センターの コラム

近年、豪雨の増加、農産物の品質低下、熱中症患者の増加など、地球温暖化による気候変動の影響が問題になっています。栃木県でも昨年度、熱中症搬送者数が1,164人になったほか、令和元年東日本台風による記録的な豪雨により甚大な被害が発生しました。

地球温暖化による被害を回避・軽減するため、「温室効果ガスの排出減(緩和策)」と併せて、「変化する気候への適応(適応策)」を進める必要があります。

県では、地域の状況に応じた気候変動への適応を進めるため、4月に栃木県気候変動適応センターを設置し、保健環境センターもその役割を担っています。気候変動適応センターは、わかりやすい情報発信をしていきます。ぜひ、ホームページをご覧ください。 <http://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/tochi-tekiou.html>



堆肥化施設の臭気に関する調査

化学部

調査の目的

化学部では、不適正な廃棄物処理によって発生する環境汚染を未然に防ぐために、様々な検査や調査を行っています。

今回は、平成 27 年度から平成 30 年度まで実施した堆肥化施設の臭気に関する調査について紹介します。

調査対象とした堆肥化施設は、食品廃棄物や動物のふんなどの有機性廃棄物から堆肥を作る施設です。

有機性廃棄物を微生物が分解することで堆肥が作られますが、その過程において、臭気が発生しやすく、近隣から悪臭苦情が寄せられることがあります。

そこで、堆肥化における臭気発生要因について調査し、悪臭そのものの発生を抑える方法を検討しました。

調査方法

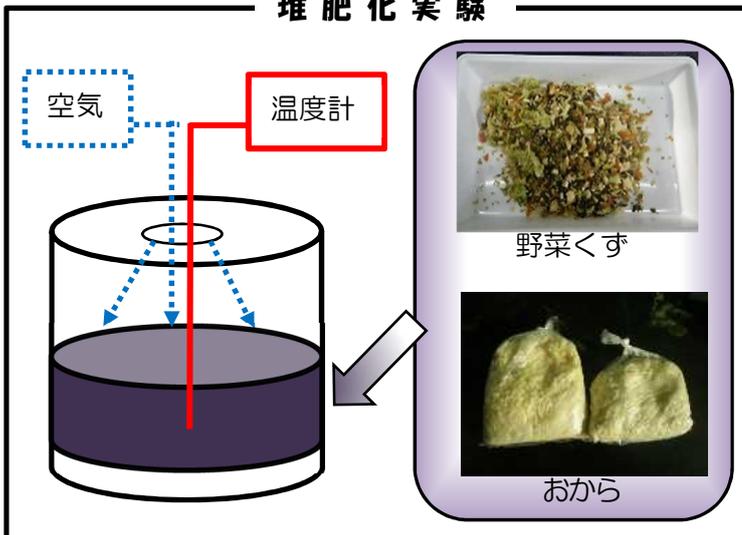
1 実地調査

県内にある堆肥化施設で、堆肥化の管理状況や臭気発生状況、原料の状態等について調査しました。

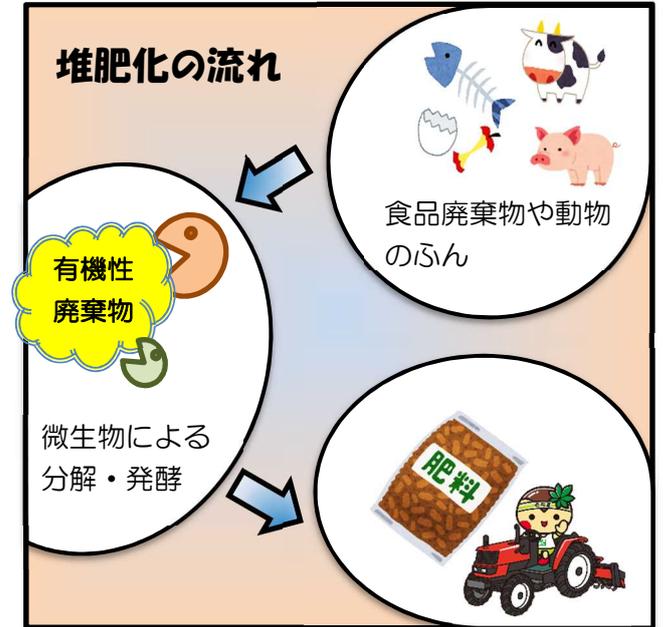
2 堆肥化実験

野菜くずやおから等を原料とし、水分量や空気供給の有無及び保管条件を変化させ、発生する臭気を測定しました。

堆肥化実験



堆肥化の流れ



調査結果

堆肥化における臭気発生抑制のポイントは、以下のとおりです。

- ①原料は細かいもの、水分を切ったものとする
- ②原料を受け入れた後、速やかに堆肥化を開始すること。
- ③堆肥化の過程においては、適切な空気(酸素)、水分(比重)、栄養分、温度を維持すること。

今回得られた調査結果については、堆肥化施設を運営する事業者への助言等に活用していきます。



調査の詳しい内容については、保健環境センターのホームページで見ることができます。

保健環境センターホームページ(年報)



発行 栃木県保健環境センター
 〒329-1196 宇都宮市下岡本町 2145-13
 TEL : 028-673-9070
 FAX : 028-673-9071
 E-mail : kenkou-kc-tidc@pref.tochigi.lg.jp
 <栃木県保健環境センターホームページ>
<http://www.pref.tochigi.lg.jp/e60/index.html>